

科目名	声優演技Ⅱ							年度	2025
英語科目名	Voice Acting Ⅱ							学期	後期
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必/選	選	時間数	70	単位数	2	種別※	実技
担当教員	涸崎ゆり子	教員の実務経験		有	実務経験の職種		声優		
【科目の目的】 後期は声優としての舞台表現を学ぶ。朗読劇制作において、マイクを使った表現を観客の前で行うことで現場の緊張感と責任感を身につける。□									
【科目の概要】 声優に求められる演技表現を身体表現も合わせて学ぶ。									
【到達目標】 呼吸法、発声法、シナリオの読解力を身に付ける。 声のみでのキャラ作りと感情表現を学ぶ。 朗読劇を通して、声だけでなく、表情、動作でも魅せられる演技を身に付ける。									
【授業の注意点】 社会人としての常識をふまえ「あいさつ」「時間」を大切に。 共に学ぶ仲間へ敬意を持つ事。授業以外でも常に向上する意識を持ち、積極的にレッスンに取り組む。 水・お茶など糖分の入っていない飲み物は持ち込み可。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験できない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 【距離感】	ステージと、作品に相応しい距離感を率先して表現することができる。	近距離も遠距離も相手役に合わせて変える事ができ、臨場感がとてもある。	自分なりに、近距離も遠距離も表現することができる。臨場感がとてもある。	近距離または遠距離どちらかがまだ身につけていない。	距離感が全くない。				
到達目標 【役作り】	その役そのものになることができ、観客にもキャラがとてよく伝わっている。	観客にも分かりやすく、キャラが伝わる表現ができる。	自分なりの解釈に役近づける事ができる。	解釈はできているが、その役が話しているようには聞こえない。	解釈ができていない。あるいは役と外れた演技をしてしまう。				
到達目標 【朗読劇の表現】	相手の台詞の時も、身振り手振りを交え、表情からも伝えられている。	自分の台詞の時も、身振り手振りを交え、表情からも伝えられている。	観客がいる事を意識し、マイク前に立つ事ができる。	声での表現はできているが、観客を意識した立ち姿ができない。	声での表現もできず、観客を意識した立ち姿もできない。				
到達目標 【朗読劇の発声】	マイクを有効に使い、距離感を表現する事ができ、誰もがはっきりと聞き取れる明瞭な滑舌で演技することができる。	誰もがはっきりと聞き取れる明瞭な滑舌で演技することができる。	滑舌よく、必要な音量で発声することができる。	滑舌は良いが他の出演者より音量が劣る。またはその逆。	滑舌も曖昧で、声も小さい。				
到達目標 【チームワーク】	自ら進んで仲間に声をかけ、意見を言い、相手の意見と違っても受け入れつつ自分の意見も友好的に言える。	自ら進んで仲間に声をかけ、意見を言い、相手の意見と違っても受け入れられる。	意見を言う事ができ、相手の意見も聞き入れる事ができる。	自分の意見を言う時や相手の意見を聞く時に感情的になる。	関わろうとしない。				
【教科書】 使用する台本はその都度配布する。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

